

平成十六年度

入学試験問題
(高校前期日程)

国語

注 意

1. 「はじめ」の合図があるまで、開かないこと。
2. 答えはすべて解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙には受験番号だけを数字で書くこと。
名前は書かなくてよい。
4. 問題の内容についての質問には答えない。
印刷が悪くて字がはっきりしない所があれば、
だまって手を上げること。
5. 「おわり」の合図があったら、問題用紙を下に、
解答用紙を上にして、回収されるまで静かに
着席していること。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人間が生きていくには、何よりも衣・食・住を欠かすことができません。それを得るには作り出さなければなりません。

米を生産するには、農具を使って土地を耕し、肥料を施し、たねをまき、水を引き、草を取り、稲を刈り、脱穀し、精製しなければ、つまり働かなければなりません。

A、人間は、働いて物を生産する場合、必ず集団で社会を作ってやっています。米を生産するのは農家の方ですが、一人ぼっちでやっているわけではありません。それに必要な農具や肥料は、労働者の方たちが市場で生産したものです。逆に、農具や肥料を生産する労働者の方たちは、農家の方が作った米や野菜を食べています。人間は、こうしたお互いの結びつき——社会関係の上に立って生産を行っているのです。

もう一つ、人間は物を生産するのに、素手で労働することはなく、何らかの機械や道具を使っています。動物にも象や猿のように集団で住んでいるものがあるけれど、決して物を生産したり、道具を使ったりすることはできません。生産は、社会的な関係を結んで行うということと、生産には道具や機械のような生産用具（生産手段ともいう）を使うことが、^①人間が動物とは本質的にちがう点であり人間社会をハッテンさせた土台でもあるのです。

B、人間とは道具を使う動物である、といわれ、また「人間の経済史は X ではなく Y で時代が区分される」といわれているのです。

「生産」が行われるカテイをよく見ると、次の三つの要素が入っていることがわかります。

第一は人間の「労働」です。いくら材料や道具があっても、人間が労働を加え、つまり使ったり加工したりしなければ死物に等しいものです。動物が走り回ってエサをさがすのも労働のような気がしますが、どういふエサに、いつありつけるかをヨソクした行動ではなく、本能にもとづく衝動にすぎません。これに対して人間の労働は、物の生産について、はっきりした目的を持ち、結果をヨソクした意識的な行動なのです。

このように一定の成果をめざして労働力（人間が持っている肉体的な力と精神的な力の総体）を発揮して生産にたずさわることが「労働」ということなのです。

第二に生産に欠くことができないのは、原料や材料のような、人間の労働が働きかける対象物—労働対象—です。家を建てるには、森林にある木や、すでに一部労働が加えられた材木や板が必要です。これらをけずったり、加工したりして家に組み立てるのです。

第三に、板をけずったり、柱にミソをつけたりするカンナ、ノミのような道具や、田畑を耕す耕運機、布を織る織機のような機械、つまり、人間が労働対象に働きかける際に使う労働手段が必要です。クワやハンマーのように直接手で握って使うものから、指先一つで動き出すオートメーション化された市場の機械も含まれます。

物の生産は、以上の^②三要素が結び合わされて行われるのですが、いつの時代にして、人間は労働を軽くし、しかもより多くの生産物を作りたいと考えてきました。それを果たしてくれるのが生産手段です。だから、人間はたえずその改善をはかって生産力を高めてきているのです。

日本では太古から米を生産してきましたが、原始時代には、せいぜい棒切れのような道具で原野を起こし、土を砕き、手で雑草を抜き、害虫を防ぎ、わずかの実りを手でつみとっていました。それが後に、鉄を使っ

たクワやカマが現われ、労働は軽くなり、しかも深く耕すことが可能になり、稲はよりよく育ち、取り入れも楽に早く行えるようになりました。

〔C〕 現在では、耕起も機械化され、田植えや稲刈りも機械化が進み、雑草も病害虫の防^オ御も、直接の手労働は少なくなり、しかも収量は非常に多くなっています。

物の生産のうえで、もっとも能動的な要素は人間の労働力であり、〔Z〕な要素は労働対象であり、二つの間をつなぎ、労働力の手先をつとめるのが労働手段というわけです。だから、人間の労働能力(技能・熟練・経験も含めて)の度合いと、生産手段の発達^③の度合いこそが、社会の生産力の高さを決めるものだといえるわけです。

(中津研二・松坂正次郎『働くものの経済知識』より)

問一 傍線部ア「ハッテン」、イ「カタイ」、ウ「ヨソク」、エ「織る」、オ「防^オ御」の、カタカナは漢字に直せ。漢字は読み方を答えよ。

問二 空欄A、Cに入る適切な語句を、それぞれ次の中から選び記号で答えよ。

ア さらに イ しかし ウ ところで エ だから

問三 傍線部①「人間が動物と本質的に違う点」とあるが、その本質的な違いとは何か。三十五字以内で答えよ。

問四 空欄X・Yに入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを、次の中から一つ選び記号で答えよ。

ア X「どんな生産手段を使って生産したか」 Y「どんな物が生産されたか」
イ X「どれくらいの労働力を使って生産したか」 Y「どのような生産能力を使って生産したか」
ウ X「どんな物が生産されたか」 Y「どんな生産手段を使って生産したか」
エ X「どのような生産能力を使って生産したか」 Y「どれくらいの労働力を使って生産したか」

問五 傍線部②「三要素」とは、どのようなものか。文中に出てきた順番通り、それぞれ漢字五字以内で抜き出せ。

問六 空欄Zに入る適切な語句を、漢字二字で答えよ。

問七 傍線部③「社会の生産力」とあるが、筆者は「社会の生産力」というものをどのように考えているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 人間が生きていく上で何よりも大切に、材料や道具を作るところから始まるもの
イ 人間の労働能力と生産手段のお互いが向上することによって高まっていくもの
ウ 人間の労働対象や能力がまず不可欠で、対象が整ってこそ生産能力が上がるもの
エ 人間の労働の上に成り立ち、数を多く生産することが最も重要なことであるもの

問八 本文全体の主旨として、正しくないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 人間は物の生産についてはっきりした目的意識を持って行動を続けてきた
イ 生産には労働する以前にその労働が働きかける対象物が多く必要とされる
ウ 現在ではさまざまな場面で機械化が進行し労働手段が大幅に向上してきた
エ 日本人は昔から米や野菜を作る労働能力を高めることに全力を傾けてきた

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

小学生の慎は母と二人で暮らしている。ある日、慎は母に、ある男性と再婚するつもりであることを告げられた。しばらくして、慎の学校の合奏会が公民館で行われた。

落成して間もない公民館だったが、マンインになったのは「のど自慢」が公開収録されたときぐらいで、徐々に減っているといわれるM市の人口に比べてもこの建物は立派すぎる、予算の無駄遣いだと評判もかんばんしくない。慎もこの立派な建物で縦笛を吹くのがとても恥ずかしい。

母は開始時間にまだ遅れた。ホールの後部ドアを開けて入ってきたとき、慎の学生の演奏はちょうど中盤に差しかかっていた。母は知らない男性と一緒に入ってきたが、たまたま同じタイミングで入った誰かの父兄だろうなどと慎は思った。慎は口に縦笛をくわえながら上目づかいにみた。母と男が暗い通路を歩いて一番後ろの客席に並んで腰掛けでも、まだあの人は誰のお父さんだろうなどとぼんやり考えていた。

それがあの「[※]外国にいる男」だった。公民館の^イテイクアウト場で紹介された。

「いい演奏だったね」というのが男の第一声だった。

家に帰ったところで、男は慎一と名乗った。

「慎君と同じ慎の字に、一」慎一はそういうと箱をくれた。あけると外国製の木の兵隊のセットだった。銃をかついだバッキンガムの兵隊が十五体。柵と木と木もある。母はそれを「あんたはどうせなくすから」といって自分の寝室の本棚の文庫本の手前に飾ってしまった。慎君にあげたんだよ、と慎一が笑いながら抗議した。

「仕方ないから、これあげる」といって、手帳を開いて挟まれていた切手をくれた。

I LOVE YOUという文字が六列並んだデザインだ。

「アメリカのバレンタインの切手。消印がどのように押されてもこれだけ書いてあれば必ずアイラブユーの文字が残るんだ」慎は水をすくうように手を丸めてそれを受け取った。半年かけてアメリカをオウダシして最後はイギリスにもいったという。

「慎君は将来なにになりたいんだ」慎一は整った顔立ちに似合わない威厳のある尋ね方をした。

「漫画家」いってほみたが、本当にそうなのか自分でもよく分からない。漫画を読むのが好きなことはたしかだ。お年玉はすべて漫画に注ぎ込んだ。母は子供だましのおもちゃには否定的だが漫画にはうるさくなかった。布団に入っとうとうとしているところに母が現れて、漫画を借りていくことがあった。自分の買った漫画が翌朝ほめられると、自分が作者であるかのように嬉しくなった。

「漫画家か。いいね」うん、うんと居間で慎一はやたら感心している。母は台所に向かっていたが振り向いて、所在なく立つ慎をみて笑った。晩御飯を一緒に食べてから母は慎一を車で送っていった。帰ってくると母は「緊張した？」と尋ねてきた。慎が首をふると「そう」じゃあもう寝なさい、といつになく優しい声でいった。

その翌朝、母は突然思い出したように「あんた漫画家になりたいんだ」といった。「私も漫画家になりたいかったんだ」そういうと自分の部屋から布に包んだものを持ってきた。テーブルの空いたところに布を広げ

ると、ペン軸やインクボトルや定規が出てきた。ところどころ穴の空いた変な形の板には見覚えがある。慎が触れると

「雲形定規」と母はいった。それから順番に「烏口に、丸ペンGペンカブラペン」と調子をつけるように他の道具の名前を覚えてくれた。

「なんで、ならなかったの漫画家」

「反対されたからさ」

「誰に」

母は気にせずペンをかじった。

「あなたはなんでもやりな。私はなんにも反対しないから」そう言うとペンを皿に置いて、両手を大きく広げてみせた。

「若いときは、こんなふうに可能性がね。右にいてもいい、左にいてもいいって、広がってるんだ」母はだんだん両手の間隔を狭めながら

④「それが、こんなふうにどんどん狭まってくる」とつづけた。

「なんで」

⑤「なんででも」母はそう言うと両手のひらをあわせてみせた。母が珍しく口にした教訓めいた物言いよりも、その手を広げた動作の方が印象に残った。

慎は初めて名前を知った雲形定規をもう一度手に取り、天井を覗いてみた。

(長嶋 有『猛スピードで母は』より)

※「外国にいる男」＝慎は母から、再婚するつもり男性は、外国で暮らしているということを知っていた。

問一 傍線部ア「マンイン」、イ「チユウシヤ」、ウ「オウタン」、エ「整った」、オ「天井」の、カタカナは漢字に直せ。漢字は読み方を答えよ。

問二 傍線部①「かんはしくない」⑤「所在なく」の本文中における言葉の意味として、次の中から最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|---|-----------|---|---|------------|
| ① | ア | ふさわしくない | ⑤ | ア | やる気がなさそうに |
| | イ | この上もない | | イ | 不満もなさそうに |
| | ウ | このましくない | | ウ | おもしろくなさそうに |
| | エ | 思ったほどではない | | エ | することもなさそうに |

問三 傍線部②「慎一が笑いながら抗議した」とあるが、これはどのような気持ちの表れだと思われるか。次の中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 贈り物を横取りするような「母」に対する失望を、やんわりと表そうとする気持ち
- イ 贈り物をする事でよい関係を築こうとした、「慎」への好意を強調する気持ち
- ウ 贈り物のことぐらいで争い合うような陰険な親子の関係をなだめようとする気持ち
- エ 贈り物を子供のように取り合う、親子の仲の良さをねたましく思う気持ち

問四 傍線部③「うとうと」のような言葉と同じ種類の言葉が用いられている文を、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 戸をとんとんたたく。

イ 火の粉がばちばちはぜる。

ウ 何も知らずのこのこやって来る。

エ 子供がぼたぼた走る。

問五 傍線部④「自分が作者であるかのように嬉しくなった」とあるが、これはなぜか。次の中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 漫画家になる決意を強くすることができるので

イ 自分の内面まで母にほめられている気がするので

ウ 好きな漫画の作者には特別な親近感があるので

エ 母より作者の気持ちを理解している自信があるので

問六 傍線部⑤「『緊張した?』と尋ねてきた」とあるが、これは「母」のどのような気持ちの表れかと思われるか。次の中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 新しく父親になる男性との対面に動揺している息子を守ろうとする気持ち

イ 会ったばかりの「慎一」を息子がどのように思っているか心配している気持ち

ウ 「慎一」と息子との初対面の様子を見ていた自分の緊張をこまかそうとする気持ち

エ 「慎一」にいきなり会って、普段と違い落ち着かない様子であった息子をからかう気持ち

問七 傍線部⑦「それが、こんなふうにとんとん狭まってくる」という言葉は、母のどのような気持ちを表していると考えられるか。本文に即して四十字以内で説明せよ。

問八 傍線部⑧「その手を広げた動作の方が印象に残った」とあるが、これはなぜだと思われるか。次の中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 母の話の内容はつまらないものだったが、大げさな身ぶりの方は、おもしろ味があったので

イ あまり信頼に値しない話を、母が身ぶりで納得させようとしているような違和感を感じたので

ウ 将来の無限の可能性を自分に一生懸命に語りかけてくる、母の熱心さの方に心を引かれたので

エ 母の言葉とは裏腹に、その動作が、まるで自分の行く手をはばむもののように思えたので



次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、^{*}釈迦仏、道をおはしけるに、黄金を多く埋みたるを^A「^①覽じて、「その蛇の上な踏みぞ。」

と仰せられければ、御弟子、「人の財にし^Bさうらふ金こそさうら^②へ。いかに蛇とは仰せ候ふぞ。」と
人々が望としております金でございます

申し給へば、「いさ、我は、その金理み持ちては蛇になるめれば、蛇と知りたるぞ。」と
(采世で) 蛇になるように思われたので

仰せられければ、^③「げに。」とこそ誰も思しけれ。 (『古本説語集』より)

※釈迦仏……仏教の開祖

問一 傍線部A「おはしける」、B「さうらふ」を、現代かなづかいに直せ。

問二 傍線部ア「^①覽じて」、イ「仰せられければ」、ウ「申し給へば」、エ「仰せられければ」の中で、
ただけ動作主(主語)が違ふものがある。それはどれか。記号で答えよ。

問三 傍線部①「その蛇の上な踏みぞ。」の訳として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|------------------|------------------|
| ア その蛇の上を踏むほうが良い | イ その蛇の上を踏んではいけない |
| ウ その蛇の上を踏むことができる | エ その蛇の上を踏むことだろう |

問四 傍線部②「いかに蛇とは仰せ候ふぞ。」の訳として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 誰が蛇だなどと判断なさったのですか
- イ どうやって蛇だとお分かりになるのですか
- ウ どうして蛇だなどとおっしゃるのですか
- エ 誰から蛇だなどと教えられたのですか

問五 傍線部③「げに。」とこそ誰も思しけれ」とあるが、皆が「ほんとうに」と思ったのは、釈迦仏の言葉のどのような点に納得・同意したからか。四十字以内で答えよ。

